

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「データサイエンス入門 第3回」社会で起きている変化 ・デジタル社会の提唱(ビッグデータ、AI、IoT) ・社会で起きている変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等の社会の変化) ・企業の競争力低下と変革 ・私たちの生活と社会の変化
	1-6 「データサイエンス入門 第9回」データ・AI利用の最新動向 ・データ・AIを活用した新しいビジネス(治安、不動産、金融、スポーツ等) ・データ・AIに関連した新技術(GAN、強化学習、転移学習) ・デジタル技術による小企業の新ビジネス創出
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 「データサイエンス入門 第4回」社会で活用されているデータ ・社会で活用されているデータの実例(統計、行動ログ、稼働ログ等) ・データの種別(一次と2次、外部と内部、構造化・準構造化・非構造化) ・データのオープン化(国・自治体のオープンデータ化とサービス)
	1-3 「データサイエンス入門 第5回」データ・AIの活用領域 ・AIの定義 ・AIの歴史(推論、探索、知識、機械学習、ディープラーニング) ・データ・AIの活用領域(すべての産業分野、デザイン・作文・作曲等創造的活動) ・データ・AIの活用が解決する日常生活や社会の課題
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ利用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 「データサイエンス入門 第6回」データ・AI利用のための技術 ・データ認識技術(文字認識技術、画像認識技術、音声認識技術、顔認識技術等) ・AI技術(ルールベースと機械学習(教師あり・なし、強化学習)) ・AIにとっての難問(フレームワーク問題、パラドックス、シンボルグラウンディング) ・AIによる影響(雇用の代替、学習デザインの変容、利活用にもつて)
	1-5 「データサイエンス入門 第8回」データ・AI利用の現場 ・製造業のデータ・AI活用(機械の挙動・状況把握とリモート管理、制御、自動化) ・小売業のデータ・AI活用(POS、無人化と自動決済) ・サービス業のデータ・AI活用(資産運用、融資) ・公共・インフラ業のデータ・AI活用(スマートメーター、MaaS、モニタリング) ・データ・AI利用の新ビジネス(シェアリングエコノミー、D2C、スマートシティ)

(4) 活用に当たったの様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「データサイエンス入門 第14回」データ・AIを扱う上での留意事項 ・「ELSI」における課題や不正行為(ねつ造、改ざん、不正行為) ・個人情報の保護と管理(法整備の現状と各国の取り組み) ・データ収集におけるバイアス(サンプル抽出、アンケート、質問、モデル構築) ・データ・AIを扱う上でのバイアス(アルゴリズムバイアス) ・AIの正しい活用に向けた「人間中心のAI社会原則」
	3-2	「データサイエンス入門 第15回」データを守る上での留意事項 ・情報セキュリティ(目的と情報漏洩、コンピュータウイルス、サイバー攻撃など) ・情報セキュリティにおける脅威事例(攻撃、不正、不注意) ・セキュリティ技術(暗号と認証、匿名化) ・私たちの生活と情報セキュリティ
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「データサイエンス入門 第10回」データを読む(1) ・データの変数(量的・質的)と尺度(名義・順序・間隔・比例) ・計算的代表値と位置的代表値(演習「データの代表値」) ・データのばらつきとデータチェック(演習「分散と標準偏差」) ・演習「相乗平均と調和平均」 「データサイエンス入門 第11回」データを読む(2) ・相関関係と因果関係(演習「気象庁のデータを読む」) ・母集団と抽出 ・統計情報の正しい理解
	2-2	「データサイエンス入門 第12回」データを説明する ・グラフの目的と種類(データ比較、時間推移、データの偏り、相互関係) ・データの比較(同一条件の比較、処理前後の比較、異なる施策の比較) ・適切なグラフ表現(対象データ、目的に合わせたグラフ選択) ・優れたデータ可視化事例
	2-3	「データサイエンス入門 第13回」データを扱う ・演習I「新店舗の売上を予測する」 ・演習II「店舗の顧客層を分析する」 ・演習III「顧客満足度を把握する」 ・演習IV「顧客不満の要因を探る」

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識及び技術を偏りなく体系的に修得することにより、社会におけるデータ・AI利活用に関する知識やデータを適切に読み解く能力を高めるとともに、利活用の楽しさや学ぶ意義を把握し、自分の生活に積極的に取り入れようとする態度の向上が期待される。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
該当なし

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	3%	令和6年度予定	25%	令和7年度予定	50%
令和8年度予定	75%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	1,576

具体的な計画

令和5年度実績 「情報リテラシー」「データサイエンス入門」履修者数／収容定員
 令和6年度予定 25%(1年) +最大40名／収容定員
 令和7年度予定 50%(1・2年) +最大40名／収容定員
 令和8年度予定 75%(1～3年) +最大40名／収容定員
 令和9年度予定 100%(1～4年)

「情報リテラシー」は本プログラム実施以前より全学必修科目として設定している。「データサイエンス入門」を開講した令和3年度からは、選択科目として卒業要件単位数に加えるとともに、自由科目扱いとなる学生を含め全学的に積極的な履修を勧める働きかけをオリエンテーション時などに実施している。また、令和6年度より「データサイエンス入門」を全学必修科目として開講している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

該当の2科目は全学生が履修可能な「共通教育科目」-「比治山ベーシック科目」-「コミュニケーションリテラシー」-「情報」区分として開講しており、学部・学科を問わず、すべての学生が受講できる。さらに令和6年度からは、2科目ともに全学必修科目として開講している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「情報リテラシー」は従来より全学必修科目としてクラス編成を行っている。令和3年度から選択科目として開講した「データサイエンス入門」は、自由科目扱いとなる学年を含め、全学的に積極的な履修を勧める働きかけをオリエンテーション時などに実施している。令和6年度より「データサイエンス入門」を全学必修科目として開講している。
 また、入学前のSNSによる周知や、本学ウェブサイトプログラム専用ページへのリンクを掲載し、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学科別に適正な履修人数となるようにクラス編成を行い、授業担当者・技術助手等の複数教員により学生の理解状況を把握して、きめ細やかな学修支援を行う体制を整えている。また、対面授業の前後等に学生からの質問・相談等に対応している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業担当教員が「オフィスアワー」を設けて、授業時間内外での学修指導や質問等に対応する体制を取っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会

(責任者名) 山崎 真克

(役職名) 部会長(教学委員長)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>教学委員会及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会において本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。授業担当者が履修者の課題提出状況等を把握し、単位修得に向けた支援・働きかけを行っている。</p>
学修成果	<p>「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」のうち、「Ⅲ 成果について」の「④ 自分の将来に役立つ内容であった」「⑤ 全体的に満足している。」の項目を分析することにより、学生の学修成果を把握している。教学委員会及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会と情報共有して本プログラムの評価・改善を図っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの内容の理解度に関する項目について、91.5%が「充分理解できた」(17.1%)・「まあまあ理解できた」(74.4%)と回答した。また、「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」においても学生の理解度を把握している。これらの結果によって授業担当者が学生の状況を把握し、「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの後輩等への推奨度に関する項目について、96.3%が「ぜひ勧めたい」(52.4%)・「できれば勧めたい」(43.9%)と回答した。後輩へ勧める理由に関する項目の回答をあわせて、後輩等他の学生への推奨度を把握している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>「比治山大学・比治山大学短期大学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関する説明チラシを作成し、オリエンテーション等で周知することで、履修者数・履修率の向上を図っている。令和6(2024)年度からは、「情報リテラシー」に加えて「データサイエンス入門」をも全学必修科目とする。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>卒業後3年程度経過した卒業生を対象とした「卒業後アンケート」、本学学生の採用実績を有する企業等を対象とした「就職先アンケート」により、本プログラムを修了した卒業生の活躍状況、企業からの評価を把握する仕組みを設けている。</p> <p>地域の経済界の状況を把握している中国経済連合会常務理事に「外部アドバイザー」を委嘱し、本プログラムの教育内容・運用状況について意見を求め、評価・改善を図っている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの学修する意義に関する項目について、97.5%が「とても感じている」(34.1%)・「ある程度は感じている」(63.4%)と回答した。また、「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」においても学修の意義についての理解度を把握している。これらの結果によって授業担当者が学生の状況を把握し、「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの授業内容をよりわかりやすくするための改善方法に関する項目について、「社会で活用されている事例を増やす」(43.9%)、「データを活用する演習を増やす」(28.0%)などの回答がみられた。これらの結果をふまえて授業担当者が「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。</p>

時間割番号	K02032	科目名	データサイエンス入門			単位数	2
担当者	鹿江 宏明、山口 梨江						
開講学期	2023年度後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F0-1550						

コア・アクティブ・ラーニング 科目群	
コア・アクティブ・ラーニング のキーワード	

概要	<p>数理・データサイエンス・AIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」を重点的に学修し、好奇心や関心を高めるとともに、数理・データサイエンス・AIの学修を通して、次の学修への意欲、動機付けになるような「学びの相乗効果」を生み出すことをねらいます。</p> <p>学修にあたっては、実データや実課題を用いた演習など社会での実例を通して、現実の課題と適切な活用法を学びます。</p> <p>※この科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に準拠した内容を、オンデマンド形式による遠隔授業で学修します。</p>
関連するディプロマポリシー	<p>本学のディプロマポリシーのうち、「1 『4×3の比治山力（汎用的能力）』を身に付け、自己実現を目指して生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生をデザインする力を身に付けている。」に関連します。具体的には、4×3の比治山力における「自立」の「①情報を集めて整理する力（情報収集力）」「②いろいろな方向からものを捉えて考える力（論理的思考力）」に深く関わります。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予測されるデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。 ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。
評価方法	<p>オンデマンド回において、各回の学習履歴と、回の終わりに毎回実施される「確認テスト」により評価します。</p>
備考	<p>この科目は、15回中11回が遠隔授業（オンデマンド形式）での履修となります。全体オリエンテーション（第1回）とアクセス方法の説明（第2回）が終わりましたら、履修者にアカウントが渡されますので、各自で学修に取り組むこととなります。</p> <p>履修定員：40名</p>
テキスト・教材・経費等	<p>（株）ベネッセコーポレーションによる「アカデミックユースコンテンツ」を利用します。</p> <p>第2回にアカウントを配付しますので、第3回以降は各自、スマートフォン、タブレット、PCを用いてアクセスし、学修を進めてください。</p> <p>各回に、教材用資料がpdfで配付されます。必要に応じて印刷をしてください。</p>

授業計画	<p>第1回【対面】 オリエンテーション</p> <p>第2回【対面】 データサイエンスとは何か</p> <p>第3回【オンデマンド】 社会で起きている変化</p> <p>第4回【オンデマンド】 社会で活用されているデータ</p> <p>第5回【オンデマンド】 データ・AIの活用領域</p> <p>第6回【オンデマンド】 データ・AI利活用のための技術</p> <p>第7回【オンデマンド】 データ活用とは</p> <p>第8回【オンデマンド】 データ・AI利活用の現場</p> <p>第9回【オンデマンド】 データ・AI利活用の最新動向</p> <p>第10回【オンデマンド】 データを読む（1）（データの種類・代表値・ばらつき・チェック）</p> <p>第11回【対面・オンデマンド】 データを読む（2）（相関と因果、母集団と抽出、統計情報の理解）</p> <p>第12回【オンデマンド】 データを説明する</p> <p>第13回【対面・オンデマンド】 データを扱う（社会における実データを用いた分析・推論の演習と提案）</p> <p>第14回【オンデマンド】 データ・AIを扱う上での留意事項</p> <p>第15回【オンデマンド】 データを守る上での留意事項</p> <p>※オンデマンド回は「Udemy アカデミックユースコンテンツ」の学修です。</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	<p>課題解決学習／自己省察</p>
準備学修（予習・復習）	<p>オンデマンドの授業回では、計画的に履修を進められるよう、毎週決まった時間に学修をしましょう。また、理解が深まるよう視聴後には「確認テスト」を受けてください。</p> <p>自学自習総時間:60 時間</p>
免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	2D1020	科目名	情報リテラシー	単位数	1
担当者	難波 千富美				
開講学期	2023年度前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	0F0-1510				

コア・アクティブ・ラーニング 科目群	
コア・アクティブ・ラーニング のキーワード	

概要	この授業は、コンピュータを使用する上で必要とされる基礎的な知識・技術、主に（１）コンピュータの基本操作、（２）情報の扱いとセキュリティ、（３）文書作成、（４）表計算とデータ処理、について学習する科目です。演習形式で自分で手を動かしながら学んでいきます。
関連するディプロマ・ポリシー	1 「4×3の比治山力（汎用的能力）」を身に付け、自己実現を目指して生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生をデザインする力を身に付けている。
到達目標	情報に関する基礎的な知識を習得し、コンピュータの基本的なアプリケーションを適切に使えるようになることを目標とします。
評価方法	<p>【単位取得の条件】下記の2項目を両方ともクリアすること</p> <p>1. 授業に10回以上出席すること（遅刻は3回で1回の欠席）。</p> <p>2. 単位認定課題を10個以上提出すること。ただし評価が0点の課題は提出には含まない。</p> <p>【評価方法】</p> <p>課題70点 小テスト20点 ドリル10点</p> <p>※合計点が60点以上でも、単位取得条件をクリアしていない場合は「不可」となります。</p>
備考	提出課題の点数と減点理由は、ハイウェイでお知らせします。
テキスト・教材・経費等	第1回の授業でオリジナルテキストを配布します。（無料）

授業計画	<p>1：学内ポータル・ハイウェイの利用・教材配布</p> <p>2：Word_日本語入力</p> <p>3：Word_文字・段落書式</p> <p>4：Word_表作成</p> <p>5：Word_課題演習</p> <p>6：Word_日本語ワープロ検定解説</p> <p>7：Word_文書デザイン検定解説</p> <p>8：Word_課題演習</p> <p>9：Word_小テスト・情報倫理</p> <p>10：Excel_計算式と書式</p> <p>11：Excel_関数と絶対参照</p> <p>12：Excel_グラフ</p> <p>13：Excel_総合演習1</p> <p>14：Excel_総合演習2</p> <p>15：Excel_小テスト・課題演習</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	コメントペーパー
準備学修（予習・復習）	<p>予習項目</p> <p>1. テキストに事前に目を通しておく</p> <p>2. 毎日タイピング練習に取り組む</p> <p>復習項目</p> <p>1. 授業で学習したことをもう一度確認する</p> <p>2. テキストの練習問題や検定問題に取り組む</p> <p>3. 資格取得を目標に練習する</p> <p>予習復習時間の目安</p> <p>・授業1回につき1時間の復習（計15時間）</p>
免許・資格	

免許・資格の科目区分

免許・資格を取得するには学生便覧を確認してください。

(1) 共通教育科目 現代文化学部 教育課程表

<2023年度入学生>

科目区分	授業科目	授業方法	授業すべき時間数	単位数		開講時期								卒業要件		
				必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
比治山ベーシック科目	スタートアップ	初年次セミナーⅠ	演習	30	2		○								4単位	
		初年次セミナーⅡ	演習	30	2			○								
	キャリア形成	キャリアデザイン	講義	30	2				○						必修2単位以上	
		キャリアデザイン演習A	演習	30	2					○						
		キャリアデザイン演習B	演習	30	2						○					
		キャリアデザイン演習C	演習	30	2							○				
		インターンシップA	実習	45	1					○						
		インターンシップB	実習	90	2					○						
	日本語	日本語リテラシー	演習	30	1		○								必修1単位を含め 2単位以上 選択必修	
		日本語表現	演習	30	1			○								
		日本語基礎	演習	30	1			○								
		外国語	英語リテラシー	演習	30	1		○								必修1単位を含め 4単位以上 選択必修 英語Ⅰまたは 英語基礎Ⅰの いずれか1つを 選択必修
			英語Ⅰ	演習	30	1			○							
			英語Ⅱ	演習	30	1				○						
			英語Ⅲ	演習	30	1					○					
			英語基礎Ⅰ	演習	30	1			○							
			英語基礎Ⅱ	演習	30	1				○						
			英語基礎Ⅲ	演習	30	1					○					
			英会話Ⅰ	演習	30	1	○									
			英会話Ⅱ	演習	30	1		○								
	中国語Ⅰ		演習	30	1	○										
	中国語Ⅱ		演習	30	1		○									
	ハングルⅠ		演習	30	1	○										
	ハングルⅡ	演習	30	1		○										
	情報	情報リテラシー	演習	30	1		○								必修1単位を含め 2単位以上 選択必修	
		情報処理演習A	演習	30	1			○								
		情報処理演習B	演習	30	1				○							
		情報処理演習C	演習	30	1					○						
		データサイエンス入門	演習	30	2			○								
		プログラミング基礎	演習	30	2				○							
教養科目	人間	人間と生命	講義	30	2	◎								2単位以上 選択必修		
		こころの科学A	講義	30	2		◎									
		こころの科学B	講義	30	2	◎										
		こころの健康A	講義	30	2	◎										
		こころの健康B	講義	30	2		◎									
		人間の発達A	講義	30	2		◎									
		人間の発達B	講義	30	2	◎										
		からだを科学する	講義	30	2	◎	◎									
		食事と健康	講義	30	2		◎									
		ウエルネス論	講義	30	2			*		*						
		スポーツA	実技	30	1	*	*									
		スポーツB	実技	30	1											
	文化	現代の文化	講義	30	2	◎								2単位以上 選択必修		
		子どもの文化	講義	30	2		◎									
		日本の文学を読む	講義	30	2	◎										
		世界の文学を読む	講義	30	2	◎										
		ことばの世界	講義	30	2	◎										
		美術の世界	講義	30	2	◎										
音楽の世界	講義	30	2		◎											
日本の映画を観る	講義	30	2	◎												
世界の映画を観る	演習	30	2	◎												
くらしの数学	演習	30	2	◎												
文芸への誘い	演習	30	2		◎											
美術を体験する	演習	30	2		◎											
地域文化を体験するA	演習	30	2	◎												
地域文化を体験するB	演習	30	2		◎											

24単位以上

科目区分	授業科目	授業方法	授業すべき時間数	単位数		開講時期								卒業要件		
				必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教養科目 社会(地域・国際)	ひろしま学A	講義	30		2	○										2単位以上 選択必修
	ひろしま学B	講義	30		2		○									
	日本国憲法	講義	30		2	*			*							
	人権を考える	講義	30		2		○									
	ボランティアワーク I	演習	30		2	○										
	ボランティアワーク II	演習	30		2		○									
	異文化を知る	講義	30		2	○	○									
	世界と日本A	講義	30		2	○										
	世界と日本B	講義	30		2		○									
	地球環境を考える A	講義	30		2	○										
	地球環境を考える B	演習	30		2	○										
	Hijiyama Global Studies 海外実習	実習	60		2		○									

開講時期の○印は、その学期に開講する科目を示しています。開講時期の◎印は、1～4年次の開講学期に開講します。履修条件については、「履修の手引き」で確認してください。開講時期の*印の授業科目についてはオリエンテーションの履修指導、時間割等により確認してください。

卒業に必要な 単位数

共通教育科目	比治山ベシック科目	スタートアップ		必修4単位	24単位 以上
		キャリア形成		必修2単位以上	
		コミュニケーションリテラシー	日本語	必修1単位を含め、2単位以上選択必修	
	外国語		必修1単位を含め、4単位以上選択必修		
	情報		必修1単位を含め、2単位以上選択必修		
	教養科目	人間		2単位以上選択必修	
文化		2単位以上選択必修			
社会(地域・国際)		2単位以上選択必修			

共通教育のコア・アクティブ・ラーニング科目

現代文化学部では以下の科目が共通教育のコア・アクティブ・ラーニング科目です。

2C0-1011 初年次セミナー I

2C0-1021 初年次セミナー II

0C0-1111 キャリアデザイン

2C0-2111 キャリアデザイン演習A

0D0-1211 日本語リテラシー

0D0-1221 日本語表現

0D0-1231 日本語基礎

0D0-1311 英語リテラシー

0D0-1321 英語 I

0D0-1351 英語基礎 I

(7) 健康栄養学部 管理栄養学科 教育課程表

<2023年度入学生>

科目区分	授業科目	授業方法	授業すべき時間数	単位数		開講時期								卒業要件	栄養士	管理栄養士	栄養教諭			
				必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次								
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
比治山ベーシック科目	スタートアップ	初年次セミナーⅠ	演習	30	2		○								4単位	○	○	○		
		初年次セミナーⅡ	演習	30	2			○								○	○	○		
	キャリア形成	キャリアデザイン	講義	30	2				○							必修2単位以上	○	○	○	
		キャリアデザイン演習A	演習	30	2					○										
		キャリアデザイン演習B	演習	30	2						○									
		キャリアデザイン演習C	演習	30	2							○								
		インターンシップA	実習	45	1					○										
		インターンシップB	実習	90	2						○									
	日本語	日本語リテラシー	演習	30	1		○								必修1単位を含め2単位以上選択必修	○	○	○		
		日本語表現	演習	30	1			○												
		日本語基礎	演習	30	1			○												
		外国語	英語リテラシー	演習	30	1		○								必修1単位を含め4単位以上選択必修 英語Ⅰまたは英語基礎Ⅰのいずれか1つを選択必修	○	○	○	
			英語Ⅰ	演習	30	1			○											
			英語Ⅱ	演習	30	1				○										
			英語Ⅲ	演習	30	1					○									
			英語基礎Ⅰ	演習	30	1			○											
			英語基礎Ⅱ	演習	30	1				○										
			英語基礎Ⅲ	演習	30	1					○									
			英会話Ⅰ	演習	30	1	○													
			英会話Ⅱ	演習	30	1		○												
	中国語Ⅰ		演習	30	1	○														
	中国語Ⅱ	演習	30	1		○														
	ハングルⅠ	演習	30	1	○															
	ハングルⅡ	演習	30	1		○														
	情報	情報リテラシー	演習	30	1		○								必修1単位を含め2単位以上選択必修	○	○	○		
		情報処理演習A	演習	30	1			○												
		情報処理演習B	演習	30	1				○											
		情報処理演習C	演習	30	1					○										
		データサイエンス入門	演習	30	2			○												
		プログラミング基礎	演習	30	2				○											
人間	人間と生命	講義	30	2		□								7単位以上選択必修※						
	こころの科学A	講義	30	2			□													
	こころの科学B	講義	30	2		□														
	こころの健康A	講義	30	2		□														
	こころの健康B	講義	30	2			□													
	人間の発達A	講義	30	2			□													
	人間の発達B	講義	30	2		□														
	からだを科学する	講義	30	2		□	□													
	食事と健康	講義	30	2			□													
	ウエルネス論	講義	30	2		○										●	●	●		
	スポーツA	実技	30	1	○											●	●	●		
	スポーツB	実技	30	1																
	文化	現代の文化	講義	30	2		□													
		子どもの文化	講義	30	2			□												
		日本の文学を読む	講義	30	2		□													
		世界の文学を読む	講義	30	2		□													
		ことばの世界	講義	30	2		□													
		美術の世界	講義	30	2		□													
		音楽の世界	講義	30	2			□												
		日本の映画を観る	講義	30	2		□													
世界の映画を観る		演習	30	2		□														
くらしの数学		演習	30	2		□														
文芸への誘い	演習	30	2			□														
美術を体験する	演習	30	2			□														
地域文化を体験するA	演習	30	2		□															
地域文化を体験するB	演習	30	2		□															

I 大・学修の手引き

II 大・履修の手引き

III 学籍について

IV 子ども発達教育専攻科
学修・履修の手引き

V 関係規程集

大学院

科目区分	授業科目	授業方法	授業すべき時間数	単位数		開講時期								卒業要件	栄養士	管理栄養士	栄養教諭	
				必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目	ひろしま学 A	講義	30		2	<input type="checkbox"/>												
	ひろしま学 B	講義	30		2		<input type="checkbox"/>											
	日本国憲法	講義	30		2						○							●
	人権を考える	講義	30		2		<input type="checkbox"/>											
	ボランティアワーク I	演習	30		2		○											
	ボランティアワーク II	演習	30		2		○											
	異文化を知る	講義	30		2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											
	世界と日本 A	講義	30		2	<input type="checkbox"/>												
	世界と日本 B	講義	30		2		<input type="checkbox"/>											
	地球環境を考える A	講義	30		2	<input type="checkbox"/>												
	地球環境を考える B	演習	30		2	<input type="checkbox"/>												
	Hijiyama Global Studies 海外実習	実習	60		2		○											

◎卒業必修科目(資格必修科目を含む) ●資格必修科目

○該当学期に開講する科目 □1～4年次の学期に開講する科目(履修の手引きで履修条件を確認すること)

※ウエルネス論, スポーツAの3単位を含む

卒業に必要な 単位数

共通教育科目	比治山ベーシック科目	スタートアップ		必修4単位	24単位以上
		キャリア形成		必修2単位以上	
		コミュニケーションリテラシー	日本語	必修1単位を含め, 2単位以上選択必修	
	外国語		必修1単位を含め, 4単位以上選択必修		
	情報		必修1単位を含め, 2単位以上選択必修		
教養科目	人間		7単位以上選択必修※		
	文化				
	社会(地域・国際)				

※資格必修科目(ウエルネス論, スポーツA)の3単位を含む

共通教育のコア・アクティブ・ラーニング科目

健康栄養学部では以下の科目が共通教育のコア・アクティブ・ラーニング科目です。

2C0-1011 初年次セミナー I

2C0-1021 初年次セミナー II

0C0-1111 キャリアデザイン

2C0-2111 キャリアデザイン演習A

0D0-1211 日本語リテラシー

0D0-1221 日本語表現

0D0-1231 日本語基礎

0D0-1311 英語リテラシー

0D0-1321 英語 I

0D0-1351 英語基礎 I

比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、比治山大学組織規程第15条第2項及び比治山大学短期大学部組織規程第18条第2項の規定に基づき、比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に係る基本方針に関する事項
- (2) 授業に係る基本方針に関する事項
- (3) 学籍に係る基本方針に関する事項
- (4) 資格等に係る基本方針に関する事項
- (5) 兼任教員の人事に関する事項
- (6) その他教学に係る重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長 2名
- (3) 各学科から選出された者各1名(ただし、言語文化学科は2名)
- (4) 各専門委員会委員長
- (5) 教務課長
- (6) キャリア支援課長

2 委員長は、副学長をもって充てる。

3 副委員長(大学及び短期大学部各1名)及び委員は、学長が任命する。

(幹事会)

第4条 委員会に、幹事会を置く。

2 幹事会は、第2条に掲げる審議事項に関する企画・立案及び委員会内の調整を行う。

第5条 幹事会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長

- (3) 各専門委員会委員長
- (4) 教務課長
- (5) キャリア支援課長

2 幹事会に幹事長を置き，委員長をもって充てる。

(部会)

第6条 委員会に，大学部会及び短期大学部会を置く。

2 部会は，大学又は短期大学部に関する次の事項をそれぞれ審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業に関する事項
- (3) 学籍に関する事項
- (4) 資格等に関する事項
- (5) その他教学に関する事項

第7条 大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，大学に属するもの
- (3) 教務課長

2 短期大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，短期大学部に属するもの
- (3) 教務課長

3 部会に部会長を置き，それぞれ前2項の副委員長をもって充てる。

(専門委員会)

第8条 教学委員会に，次の専門委員会を置く。

- (1) スタートアップ専門委員会
- (2) キャリア形成専門委員会
- (3) 日本語専門委員会
- (4) 英語専門委員会
- (5) 情報専門委員会

- 2 専門委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 共通教育の各担当専門的事項の企画に関する事項
 - (2) 共通教育の兼任教員の人事案に関する事項
- 3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
 - (1) 専門委員会委員長
 - (2) 専門委員若干名
- 4 専門委員会委員長及び専門委員は、学長が指名する。
(会議及び運営)

第9条 委員長、幹事長、部会長又は専門委員会委員長（以下「委員長等」という。）は、それぞれ会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長等に事故あるときは、あらかじめ委員長等が指名した者がその職務を行う。
- 3 委員長等は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
(任期)

第10条 委員長等及び委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員長等又は委員が欠員になったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(事務)

第11条 委員会等の事務は、教務課及びキャリア支援課において処理する。

- 2 第2条第5号に係る事務は、法人事務局人事課において処理する。
(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則（平成21年3月24日制定）

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 「比治山大学教養教育推進委員会規程（平成18年4月1日施行）」及び「比治山大学教務委員会規程（平成18年4月1日施行）」は、この規程の施行日をもって廃止する。

附 則（平成21年12月17日改正）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日改正）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月27日改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月24日改正）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年2月5日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月23日改正）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和5年12月27日改正）

この規程は、令和5年12月27日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会に関する内規

- 1 この内規は、比治山大学教学委員会規程第 8 条第 1 項第 5 号の規定に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会（以下「部会」）に関し必要な事項を定める。
- 2 部会は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施に関し企画・立案する。
- 3 部会の委員は、学長が指名する。

附 則（令和 5 年 6 月 1 3 日制定）

この内規は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、比治山大学組織規程第15条第2項及び比治山大学短期大学部組織規程第18条第2項の規定に基づき、比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に係る基本方針に関する事項
- (2) 授業に係る基本方針に関する事項
- (3) 学籍に係る基本方針に関する事項
- (4) 資格等に係る基本方針に関する事項
- (5) 兼任教員の人事に関する事項
- (6) その他教学に係る重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長 2名
- (3) 各学科から選出された者各1名(ただし、言語文化学科は2名)
- (4) 各専門委員会委員長
- (5) 教務課長
- (6) キャリア支援課長

2 委員長は、副学長をもって充てる。

3 副委員長(大学及び短期大学部各1名)及び委員は、学長が任命する。

(幹事会)

第4条 委員会に、幹事会を置く。

2 幹事会は、第2条に掲げる審議事項に関する企画・立案及び委員会内の調整を行う。

第5条 幹事会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長

- (3) 各専門委員会委員長
- (4) 教務課長
- (5) キャリア支援課長

2 幹事会に幹事長を置き，委員長をもって充てる。

(部会)

第6条 委員会に，大学部会及び短期大学部会を置く。

2 部会は，大学又は短期大学部に関する次の事項をそれぞれ審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業に関する事項
- (3) 学籍に関する事項
- (4) 資格等に関する事項
- (5) その他教学に関する事項

第7条 大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，大学に属するもの
- (3) 教務課長

2 短期大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，短期大学部に属するもの
- (3) 教務課長

3 部会に部会長を置き，それぞれ前2項の副委員長をもって充てる。

(専門委員会)

第8条 教学委員会に，次の専門委員会を置く。

- (1) スタートアップ専門委員会
- (2) キャリア形成専門委員会
- (3) 日本語専門委員会
- (4) 英語専門委員会
- (5) 情報専門委員会

- 2 専門委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 共通教育の各担当専門的事項の企画に関する事項
 - (2) 共通教育の兼任教員の人事案に関する事項
- 3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
 - (1) 専門委員会委員長
 - (2) 専門委員若干名
- 4 専門委員会委員長及び専門委員は、学長が指名する。
(会議及び運営)

第9条 委員長、幹事長、部会長又は専門委員会委員長（以下「委員長等」という。）は、それぞれ会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長等に事故あるときは、あらかじめ委員長等が指名した者がその職務を行う。
- 3 委員長等は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
(任期)

第10条 委員長等及び委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員長等又は委員が欠員になったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(事務)

第11条 委員会等の事務は、教務課及びキャリア支援課において処理する。

- 2 第2条第5号に係る事務は、法人事務局人事課において処理する。
(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則（平成21年3月24日制定）

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 「比治山大学教養教育推進委員会規程（平成18年4月1日施行）」及び「比治山大学教務委員会規程（平成18年4月1日施行）」は、この規程の施行日をもって廃止する。

附 則（平成21年12月17日改正）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日改正）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月27日改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月24日改正）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年2月5日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月23日改正）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和5年12月27日改正）

この規程は、令和5年12月27日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会に関する内規

- 1 この内規は、比治山大学教学委員会規程第 8 条第 1 項第 5 号の規定に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会（以下「部会」）に関し必要な事項を定める。
- 2 部会は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施に関し企画・立案する。
- 3 部会の委員は、学長が指名する。

附 則（令和 5 年 6 月 1 3 日制定）

この内規は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

大学等名	比治山大学
教育プログラム名	比治山大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要

プログラムの目的

データの収集・整理・分析、AIの応用などをわかりやすく学ぶことで、デジタル社会の基礎的な素養として、日常生活や仕事でAIを利活用する能力やデータサイエンスの知識を身に付けること

身に付けられる能力

- ・ 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識及び技術を偏りなく体系的に修得することにより、社会におけるデータ・AI利活用に関する知識やデータを適切に読み解く能力を高める
- ・ 数理・データサイエンス・AIの利活用の楽しさや学ぶ意義を把握し、自分の生活に積極的に取り入れようとする態度を向上させる

開講されている科目の構成

「共通教育科目」 - 「比治山ベーシック科目」 - 「コミュニケーションリテラシー」 - 「情報」区分における「情報リテラシー」・「データサイエンス入門」

修了要件

「情報リテラシー」（1単位）・「データサイエンス入門」（2単位）の合計3単位を修得すること

実施体制

教学委員会 — 情報専門委員会 — **数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会**（情報メディアセンターと連携）

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「データサイエンス入門 第3回」社会で起きている変化 <ul style="list-style-type: none"> デジタル社会の提唱(ビッグデータ、AI、IoT) 社会で起きている変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等の社会の変化) 企業の競争力低下と変革 私たちの生活と社会の変化
	1-6 「データサイエンス入門 第9回」データ・AI利用の最新動向 <ul style="list-style-type: none"> データ・AIを活用した新しいビジネス(治安、不動産、金融、スポーツ等) データ・AIに関連した新技術(GAN、強化学習、転移学習) デジタル技術による小企業の新ビジネス創出
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 「データサイエンス入門 第4回」社会で活用されているデータ <ul style="list-style-type: none"> 社会で活用されているデータの実例(統計、行動ログ、稼働ログ等) データの種別(一次と2次、外部と内部、構造化・準構造化・非構造化) データのオープン化(国・自治体のオープンデータ化とサービス)
	1-3 「データサイエンス入門 第5回」データ・AIの活用領域 <ul style="list-style-type: none"> AIの定義 AIの歴史(推論、探索、知識、機械学習、ディープラーニング) データ・AIの活用領域(すべての産業分野、デザイン・作文・作曲等創造的活動) データ・AIの活用が解決する日常生活や社会の課題
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ利用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 「データサイエンス入門 第6回」データ・AI利用のための技術 <ul style="list-style-type: none"> データ認識技術(文字認識技術、画像認識技術、音声認識技術、顔認識技術等) AI技術(ルールベースと機械学習(教師あり・なし、強化学習)) AIにとっての難問(フレームワーク問題、パラドックス、シンボルグラウンディング) AIによる影響(雇用の代替、学習デザインの変容、利活用にもつて)
	1-5 「データサイエンス入門 第8回」データ・AI利用の現場 <ul style="list-style-type: none"> 製造業のデータ・AI活用(機械の挙動・状況把握とリモート管理、制御、自動化) 小売業のデータ・AI活用(POS、無人化と自動決済) サービス業のデータ・AI活用(資産運用、融資) 公共・インフラ業のデータ・AI活用(スマートメーター、MaaS、モニタリング) データ・AI利用の新ビジネス(シェアリングエコノミー、D2C、スマートシティ)

(4)活用に当たつての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「データサイエンス入門 第14回」データを扱う上での留意事項 ・「ELSI」における課題や不正行為(ねつ造、改ざん、不正行為) ・個人情報の保護と管理(法整備の現状と各国の取り組み) ・データ収集におけるバイアス(サンプル抽出、アンケート、質問、モデル構築) ・データ・AIを扱う上でのバイアス(アルゴリズムバイアス) ・AIの正しい活用に向けた「人間中心のAI社会原則」
	3-2	「データサイエンス入門 第15回」データを守る上での留意事項 ・情報セキュリティ(目的と情報漏洩、コンピュータウイルス、サイバー攻撃など) ・情報セキュリティにおける脅威事例(攻撃、不正、不注意) ・セキュリティ技術(暗号と認証、匿名化) ・私たちの生活と情報セキュリティ
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「データサイエンス入門 第10回」データを読む(1) ・データの変数(量的・質的)と尺度(名義・順序・間隔・比例) ・計算的代表値と位置的代表値(演習「データの代表値」) ・データのばらつきとデータチェック(演習「分散と標準偏差」) ・演習「相乗平均と調和平均」 「データサイエンス入門 第11回」データを読む(2) ・相関関係と因果関係(演習「気象庁のデータを読む」) ・母集団と抽出 ・統計情報の正しい理解
	2-2	「データサイエンス入門 第12回」データを説明する ・グラフの目的と種類(データ比較、時間推移、データの偏り、相互関係) ・データの比較(同一条件の比較、処理前後の比較、異なる施策の比較) ・適切なグラフ表現(対象データ、目的に合わせたグラフ選択) ・優れたデータ可視化事例
	2-3	「データサイエンス入門 第13回」データを扱う ・演習I「新店舗の売上を予測する」 ・演習II「店舗の顧客層を分析する」 ・演習III「顧客満足度を把握する」 ・演習IV「顧客不満の要因を探る」

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識及び技術を偏りなく体系的に修得することにより、社会におけるデータ・AI活用に關する知識やデータを適切に読み解く能力を高めるとともに、利活用の楽しさや学ぶ意義を把握し、自分の生活に積極的に取り入れようとする態度の向上が期待される。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
該当なし

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和 5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 29人 女性 406人 (合計 435 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
幼児教育科	172	100	200	1	1											1	1%
総合生活デザイン学科	110	100	200	3	0											3	2%
美術科	153	70	140	56	18											56	40%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	435	270	540	60	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	11%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

教学委員会に専門委員会(スタートアップ・キャリア形成・日本語・英語・情報)を置き、共通教育の各担当専門的事項の企画に関する事項等の審議を行っている。また情報専門委員会のもとに数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会を置き、数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する企画・立案を行っている。教育プログラムに関わる授業科目については、情報専門委員会を中心とした教学委員会と情報メディアセンターが連携して実施している。

⑦ 具体的な構成員

山崎 真克(数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会長)(副学長(教育・学生担当)・教学委員長)
 福伊智(教学副委員長(大学))
 今田拓志(教学副委員長(短大))
 鹿江宏明(情報メディアセンター長)
 山口梨江(情報専門委員長)
 大谷光一(情報専門委員)
 竹迫晴絵(教務課長)
 天野博司(図書・情報メディア課長)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	11%	令和6年度予定	50%	令和7年度予定	100%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	540

具体的な計画

令和5年度実績 「情報リテラシー」「データサイエンス入門」履修者数／収容定員
 令和6年度予定 50%(1年)／収容定員
 令和7年度予定 100%(1・2年)☑収容定員

「情報リテラシー」は本プログラム実施以前より全学必修科目として設定している。「データサイエンス入門」を開講した令和3年度からは、選択科目として卒業要件単位数に加えるとともに、自由科目扱いとなる学生を含め全学的に積極的な履修を勧める働きかけをオリエンテーション時などに実施している。また、令和6年度より「データサイエンス入門」を全学必修科目として開講している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

該当の2科目は全学生が履修可能な「共通教育科目」-「比治山ベーシック科目」-「コミュニケーションリテラシー」-「情報」区分として開講しており、学部・学科を問わず、すべての学生が受講できる。さらに令和6年度からは、2科目ともに全学必修科目として開講している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「情報リテラシー」は従来より全学必修科目としてクラス編成を行っている。令和3年度から選択科目として開講した「データサイエンス入門」は、自由科目扱いとなる学年を含め、全学的に積極的な履修を勧める働きかけをオリエンテーション時などに実施している。令和6年度より「データサイエンス入門」を全学必修科目として開講している。
 また、入学前のSNSによる周知や、本学ウェブサイトプログラム専用ページへのリンクを掲載し、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学科別に適正な履修人数となるようにクラス編成を行い、授業担当者・技術助手等の複数教員により学生の理解状況を把握して、きめ細やかな学修支援を行う体制を整えている。また、対面授業の前後等に学生からの質問・相談等に対応している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業担当教員が「オフィスアワー」を設けて、授業時間内外での学修指導や質問等に対応する体制を取っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会

(責任者名) 山崎 真克

(役職名) 部会長(教学委員長)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>教学委員会及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会において本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。授業担当者が履修者の課題提出状況等を把握し、単位修得に向けた支援・働きかけを行っている。</p>
学修成果	<p>「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」のうち、「Ⅲ 成果について」の「④ 自分の将来に役立つ内容であった」「⑤ 全体的に満足している。」の項目を分析することにより、学生の学修成果を把握している。教学委員会及び数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会と情報共有して本プログラムの評価・改善を図っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの内容の理解度に関する項目について、91.5%が「充分理解できた」(17.1%)・「まあまあ理解できた」(74.4%)と回答した。また、「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」においても学生の理解度を把握している。これらの結果によって授業担当者が学生の状況を把握し、「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの後輩等への推奨度に関する項目について、96.3%が「ぜひ勧めたい」(52.4%)・「できれば勧めたい」(43.9%)と回答した。後輩へ勧める理由に関する項目の回答をあわせて、後輩等他の学生への推奨度を把握している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>「比治山大学・比治山大学短期大学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関する説明チラシを作成し、オリエンテーション等で周知することで、履修者数・履修率の向上を図っている。令和6(2024)年度からは、「情報リテラシー」に加えて「データサイエンス入門」をも全学必修科目とする。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>卒業後3年程度経過した卒業生を対象とした「卒業後アンケート」、本学学生の採用実績を有する企業等を対象とした「就職先アンケート」により、本プログラムを修了した卒業生の活躍状況、企業からの評価を把握する仕組みを設けている。</p> <p>地域の経済界の状況を把握している中国経済連合会常務理事に「外部アドバイザー」を委嘱し、本プログラムの教育内容・運用状況について意見を求め、評価・改善を図っている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの学修する意義に関する項目について、97.5%が「とても感じている」(34.1%)・「ある程度は感じている」(63.4%)と回答した。また、「教育研究開発センター」「評価・IR部門」において本プログラム履修者全員を対象として実施している「授業に関するアンケート」においても学修の意義についての理解度を把握している。これらの結果によって授業担当者が学生の状況を把握し、「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本プログラム履修者を対象として実施したアンケートの授業内容をよりわかりやすくするための改善方法に関する項目について、「社会で活用されている事例を増やす」(43.9%)、「データを活用する演習を増やす」(28.0%)などの回答がみられた。これらの結果をふまえて授業担当者が「課題」「改善」に関するコメントを作成して情報共有している。</p>

時間割番号	K02032	科目名	データサイエンス入門			単位数	2
担当者	鹿江 宏明、山口 梨江						
開講学期	2023年度後期	開講年次	1	授業方法	演習		
ナンバリング	1F0-1550						

コア・アクティブ・ラーニング 科目群	
コア・アクティブ・ラーニング のキーワード	

概要	<p>数理・データサイエンス・AIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」を重点的に学修し、好奇心や関心を高めるとともに、数理・データサイエンス・AIの学修を通して、次の学修への意欲、動機付けになるような「学びの相乗効果」を生み出すことをねらいます。</p> <p>学修にあたっては、実データや実課題を用いた演習など社会での実例を通して、現実の課題と適切な活用法を学びます。</p> <p>※この科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に準拠した内容を、オンデマンド形式による遠隔授業で学修します。</p>
関連するディプロマポリシー	<p>本学のディプロマポリシーのうち、「1 『4×3の比治山力（汎用的能力）』を身に付け、自己実現を目指して生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生をデザインする力を身に付けている。」に関連します。具体的には、4×3の比治山力における「自立」の「①情報を集めて整理する力（情報収集力）」「②いろいろな方向からものを捉えて考える力（論理的思考力）」に深く関わります。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予測されるデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。 ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。
評価方法	<p>オンデマンド回において、各回の学習履歴と、回の終わりに毎回実施される「確認テスト」により評価します。</p>
備考	<p>この科目は、15回中11回が遠隔授業（オンデマンド形式）での履修となります。全体オリエンテーション（第1回）とアクセス方法の説明（第2回）が終わりましたら、履修者にアカウントが渡されますので、各自で学修に取り組むこととなります。</p> <p>履修定員：40名</p>
テキスト・教材・経費等	<p>（株）ベネッセコーポレーションによる「アカデミックユースコンテンツ」を利用します。</p> <p>第2回にアカウントを配付しますので、第3回以降は各自、スマートフォン、タブレット、PCを用いてアクセスし、学修を進めてください。</p> <p>各回に、教材用資料がpdfで配付されます。必要に応じて印刷をしてください。</p>

授業計画	<p>第1回【対面】 オリエンテーション</p> <p>第2回【対面】 データサイエンスとは何か</p> <p>第3回【オンデマンド】 社会で起きている変化</p> <p>第4回【オンデマンド】 社会で活用されているデータ</p> <p>第5回【オンデマンド】 データ・AIの活用領域</p> <p>第6回【オンデマンド】 データ・AI利活用のための技術</p> <p>第7回【オンデマンド】 データ活用とは</p> <p>第8回【オンデマンド】 データ・AI利活用の現場</p> <p>第9回【オンデマンド】 データ・AI利活用の最新動向</p> <p>第10回【オンデマンド】 データを読む（1）（データの種類・代表値・ばらつき・チェック）</p> <p>第11回【対面・オンデマンド】 データを読む（2）（相関と因果、母集団と抽出、統計情報の理解）</p> <p>第12回【オンデマンド】 データを説明する</p> <p>第13回【対面・オンデマンド】 データを扱う（社会における実データを用いた分析・推論の演習と提案）</p> <p>第14回【オンデマンド】 データ・AIを扱う上での留意事項</p> <p>第15回【オンデマンド】 データを守る上での留意事項</p> <p>※オンデマンド回は「Udemy アカデミックユースコンテンツ」の学修です。</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	<p>課題解決学習／自己省察</p>
準備学修（予習・復習）	<p>オンデマンドの授業回では、計画的に履修を進められるよう、毎週決まった時間に学修をしましょう。また、理解が深まるよう視聴後には「確認テスト」を受けてください。</p> <p>自学自習総時間:60 時間</p>
免許・資格	
免許・資格の科目区分	

時間割番号	1F1008	科目名	情報リテラシー	単位数	1
担当者	山口 梨江				
開講学期	2023年度前期	開講年次	1	授業方法	演習
ナンバリング	0F0-1510				

コア・アクティブ・ラーニング 科目群	
コア・アクティブ・ラーニング のキーワード	

概要	この授業では、コンピュータの基本的操作を学んだのち、パソコンやスマートフォンまたはインターネットの利用を通じて、メールの読み書き、データの処理、資料・Webページ・プログラムなど様々な情報コンテンツを作成し情報化社会に必要なスキルを習得していきます。また、情報セキュリティや情報モラルなど情報化社会を安全にトラブルなく生き抜くに必要な知識も学習していきます。
関連するディプロマポリシー	比治山大学短期大学のディプロマポリシー 1 「4×3の比治山力（汎用的能力）」を身に付け、自己実現を目指して生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生をデザインする力を身に付けている。 2 専門分野における確かな知識・技能及び実践力を身に付けている。 3 専門性を磨き、職業人としての自覚を深め、問題解決に向けて努力する態度を身に付けている。
到達目標	各回の授業にて 第1回 PCやG Suiteの操作 第2回 メールを送受信 第3回 コンピュータネットワークの基礎知識 第4-6回 文書作成(Word) 第7-9回 データ処理(Excel) 第10-11回 情報デザイン思考(PowerPoint) 第12回 ネットワーク社会における情報セキュリティ 第13回 SNSにおける個人情報・プライバシー 第14回 情報倫理 の知識やスキルを習得する。
評価方法	授業各回の課題やレポート（60%） 確認テスト（40%）
備考	この授業ではGoogle Classroomを使用します。 授業に関する質問がある場合は、ClassroomやGmailを利用してください。 担当教員の連絡先：liek@hijiyama-u.ac.jp（比治山大学のアカウント以外からのメールには対応しません。）
テキスト・教材・経費等	必要に応じて教員が補助資料や演習教材を準備し配布します。

授業計画	第1回 オリエンテーション（OS・インターネット・クラウドサービス・タイピング） 第2回 メールを使い方 第3回 コンピュータネットワークの基礎知識 第4回 文書作成(Word) キーの操作方法、書式設定 第5回 文書作成(Word) レイアウト、図形・画像挿入 第6回 文書作成(Word) 表の挿入、ビジネス文書 第7回 表計算(Excel) 文字の入力、データ入力 第8回 表計算(Excel) 数式入力 第9回 表計算(Excel) 表の書式、グラフの挿入 第10回 情報デザイン(PowerPoint) テンプレートの使用 第11回 情報デザイン(PowerPoint) スライドの作成、スライドショー 第12回 情報セキュリティ1 コンピュータ・ウイルス、不正アクセス、ソーシャル・エンジニアリング 第13回 情報セキュリティ2 インターネットのリスク、SNSと個人情報 第14回 情報倫理 第15回 確認テスト、最終レポート 定期試験は実施しません。
アクティブ・ラーニングの授業形態	課題発見学習、コメント・ペーパー、自己省察
準備学修（予習・復習）	予習の方法：各授業のキーワード（授業計画を参照）をインターネットなどで事前に調べて、意味や概要を把握し、授業当日の学習内容の理解度を高める 復習の方法：各授業で取り組んだコンテンツを再び自分の力のみで作成したり、教わった知識を自分の言葉で説明することでス

	キルや知識の習得度を高める その他：授業で提示するアプリケーションを利用してタイピングを毎日練習する。 自学自習総時間：30時間
--	--

免許・資格	
-------	--

免許・資格の科目区分	授業形態：単独
------------	---------

授業科目区分	授業科目	授業方法	授業すべき時間数	単位数		開講時期				卒業要件	
				必修	選択	1年次		2年次			
						前期	後期	前期	後期		
比治山ベリック科目	スタートアップ	初年次セミナー	演習	30	2		○				2単位
	キャリア形成	キャリアデザイン	講義	30	2			○			必修を含め 2単位以上
		キャリアデザイン演習	演習	30		2			○		
		インターンシップA	実習	45		1				○	
		インターンシップB	実習	90		2				○	
		日本語リテラシー	演習	30	1		○				
	コミュニケーションリテラシー	日本語	日本語表現	演習	30		1		○		必修を含め 1単位以上
			日本語基礎	演習	30		1		○		
			英語リテラシー	演習	30	1		○			
		外国語	英語I	演習	30		1		○		
			英語基礎I	演習	30		1		○		
			英会話I	演習	30		1	○			
			英会話II	演習	30		1		○		
			中国語I	演習	30		1	○			
			中国語II	演習	30		1		○		
			ハングルI	演習	30		1	○			
	ハングルII	演習	30		1		○				
	情報	情報リテラシー	演習	30	1		*				必修を含め 1単位以上
		文書デザイン演習	演習	30		1	*	*			
		表計算演習	演習	30		1		*	*		
データサイエンス入門		演習	30		2		○				
プログラミング基礎		演習	30		2			○			
教養科目	人間	人間と生命	講義	30	2		○			12単位以上	
		こころの科学A	講義	30	2			○			
		こころの科学B	講義	30	2		○				
		こころの健康A	講義	30	2		○				
		こころの健康B	講義	30	2			○			
		人間の発達A	講義	30	2			○			
		人間の発達B	講義	30	2		○				
		からだを科学する	講義	30	2		○	○			
		食事と健康	講義	30	2			○			
		ウエルネス論	講義	30	2			*			
	スポーツA	実技	30	1	*	*					
	スポーツB	実技	30	1							
	文化	現代の文化	講義	30	2		○				
		子どもの文化	講義	30	2			○			
		日本の文学を読む	講義	30	2		○				
		世界の文学を読む	講義	30	2		○				
		ことばの世界	講義	30	2		○				
		美術の世界	講義	30	2		○				
		音楽の世界	講義	30	2			○			
		日本の映画を観る	講義	30	2		○				
世界の映画を観る		演習	30	2		○					
くらしの数学		演習	30	2		○					
社会(地域・国際)	文芸への誘い	演習	30	2			○				
	美術を体験する	演習	30	2			○				
	地域文化を体験するA	演習	30	2		○					
	地域文化を体験するB	演習	30	2			○				
	ひろしま学A	講義	30	2		○					
	ひろしま学B	講義	30	2			○				
	日本国憲法	講義	30	2	*	*					
	人権を考える	講義	30	2			○				
	ボランティアワークI	演習	30	2		○					
	ボランティアワークII	演習	30	2			○				
異文化を知る	講義	30	2		○	○					
世界と日本A	講義	30	2		○						
世界と日本B	講義	30	2			○					
地球環境を考えるA	講義	30	2		○						
地球環境を考えるB	演習	30	2		○						
Hijiyama Global Studies 海外実習	実習	60		2		○					

比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、比治山大学組織規程第15条第2項及び比治山大学短期大学部組織規程第18条第2項の規定に基づき、比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に係る基本方針に関する事項
- (2) 授業に係る基本方針に関する事項
- (3) 学籍に係る基本方針に関する事項
- (4) 資格等に係る基本方針に関する事項
- (5) 兼任教員の人事に関する事項
- (6) その他教学に係る重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長 2名
- (3) 各学科から選出された者各1名(ただし、言語文化学科は2名)
- (4) 各専門委員会委員長
- (5) 教務課長
- (6) キャリア支援課長

2 委員長は、副学長をもって充てる。

3 副委員長(大学及び短期大学部各1名)及び委員は、学長が任命する。

(幹事会)

第4条 委員会に、幹事会を置く。

2 幹事会は、第2条に掲げる審議事項に関する企画・立案及び委員会内の調整を行う。

第5条 幹事会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長

- (3) 各専門委員会委員長
- (4) 教務課長
- (5) キャリア支援課長

2 幹事会に幹事長を置き，委員長をもって充てる。

(部会)

第6条 委員会に，大学部会及び短期大学部会を置く。

2 部会は，大学又は短期大学部に関する次の事項をそれぞれ審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業に関する事項
- (3) 学籍に関する事項
- (4) 資格等に関する事項
- (5) その他教学に関する事項

第7条 大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，大学に属するもの
- (3) 教務課長

2 短期大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，短期大学部に属するもの
- (3) 教務課長

3 部会に部会長を置き，それぞれ前2項の副委員長をもって充てる。

(専門委員会)

第8条 教学委員会に，次の専門委員会を置く。

- (1) スタートアップ専門委員会
- (2) キャリア形成専門委員会
- (3) 日本語専門委員会
- (4) 英語専門委員会
- (5) 情報専門委員会

- 2 専門委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 共通教育の各担当専門的事項の企画に関する事項
 - (2) 共通教育の兼任教員の人事案に関する事項
- 3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
 - (1) 専門委員会委員長
 - (2) 専門委員若干名
- 4 専門委員会委員長及び専門委員は、学長が指名する。
(会議及び運営)

第9条 委員長、幹事長、部会長又は専門委員会委員長（以下「委員長等」という。）は、それぞれ会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長等に事故あるときは、あらかじめ委員長等が指名した者がその職務を行う。
- 3 委員長等は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
(任期)

第10条 委員長等及び委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員長等又は委員が欠員になったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(事務)

第11条 委員会等の事務は、教務課及びキャリア支援課において処理する。

- 2 第2条第5号に係る事務は、法人事務局人事課において処理する。
(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則（平成21年3月24日制定）

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 「比治山大学教養教育推進委員会規程（平成18年4月1日施行）」及び「比治山大学教務委員会規程（平成18年4月1日施行）」は、この規程の施行日をもって廃止する。

附 則（平成21年12月17日改正）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日改正）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月27日改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月24日改正）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年2月5日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月23日改正）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和5年12月27日改正）

この規程は、令和5年12月27日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会に関する内規

- 1 この内規は、比治山大学教学委員会規程第 8 条第 1 項第 5 号の規定に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会（以下「部会」）に関し必要な事項を定める。
- 2 部会は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施に関し企画・立案する。
- 3 部会の委員は、学長が指名する。

附 則（令和 5 年 6 月 1 3 日制定）

この内規は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、比治山大学組織規程第15条第2項及び比治山大学短期大学部組織規程第18条第2項の規定に基づき、比治山大学・比治山大学短期大学部教学委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に係る基本方針に関する事項
- (2) 授業に係る基本方針に関する事項
- (3) 学籍に係る基本方針に関する事項
- (4) 資格等に係る基本方針に関する事項
- (5) 兼任教員の人事に関する事項
- (6) その他教学に係る重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長 2名
- (3) 各学科から選出された者各1名(ただし、言語文化学科は2名)
- (4) 各専門委員会委員長
- (5) 教務課長
- (6) キャリア支援課長

2 委員長は、副学長をもって充てる。

3 副委員長(大学及び短期大学部各1名)及び委員は、学長が任命する。

(幹事会)

第4条 委員会に、幹事会を置く。

2 幹事会は、第2条に掲げる審議事項に関する企画・立案及び委員会内の調整を行う。

第5条 幹事会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長

- (3) 各専門委員会委員長
- (4) 教務課長
- (5) キャリア支援課長

2 幹事会に幹事長を置き，委員長をもって充てる。

(部会)

第6条 委員会に，大学部会及び短期大学部会を置く。

2 部会は，大学又は短期大学部に関する次の事項をそれぞれ審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業に関する事項
- (3) 学籍に関する事項
- (4) 資格等に関する事項
- (5) その他教学に関する事項

第7条 大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，大学に属するもの
- (3) 教務課長

2 短期大学部会は，次の各号に掲げる委員で組織する。ただし，必要に応じて委員以外の教職員の出席を求めることができる。

- (1) 副委員長
- (2) 第3条第1項第3号に掲げる者のうち，短期大学部に属するもの
- (3) 教務課長

3 部会に部会長を置き，それぞれ前2項の副委員長をもって充てる。

(専門委員会)

第8条 教学委員会に，次の専門委員会を置く。

- (1) スタートアップ専門委員会
- (2) キャリア形成専門委員会
- (3) 日本語専門委員会
- (4) 英語専門委員会
- (5) 情報専門委員会

- 2 専門委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 共通教育の各担当専門的事項の企画に関する事項
 - (2) 共通教育の兼任教員の人事案に関する事項
- 3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
 - (1) 専門委員会委員長
 - (2) 専門委員若干名
- 4 専門委員会委員長及び専門委員は、学長が指名する。
(会議及び運営)

第9条 委員長、幹事長、部会長又は専門委員会委員長（以下「委員長等」という。）は、それぞれ会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長等に事故あるときは、あらかじめ委員長等が指名した者がその職務を行う。
- 3 委員長等は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
(任期)

第10条 委員長等及び委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員長等又は委員が欠員になったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(事務)

第11条 委員会等の事務は、教務課及びキャリア支援課において処理する。

- 2 第2条第5号に係る事務は、法人事務局人事課において処理する。
(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則（平成21年3月24日制定）

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 「比治山大学教養教育推進委員会規程（平成18年4月1日施行）」及び「比治山大学教務委員会規程（平成18年4月1日施行）」は、この規程の施行日をもって廃止する。

附 則（平成21年12月17日改正）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日改正）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月27日改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月24日改正）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年2月5日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年3月23日改正）

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和5年12月27日改正）

この規程は、令和5年12月27日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会に関する内規

- 1 この内規は、比治山大学教学委員会規程第 8 条第 1 項第 5 号の規定に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム部会（以下「部会」）に関し必要な事項を定める。
- 2 部会は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの実施に関し企画・立案する。
- 3 部会の委員は、学長が指名する。

附 則（令和 5 年 6 月 1 3 日制定）

この内規は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

大学等名	比治山大学短期大学部
教育プログラム名	比治山大学短期大学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要

プログラムの目的

データの収集・整理・分析、AIの応用などをわかりやすく学ぶことで、デジタル社会の基礎的な素養として、日常生活や仕事でAIを利活用する能力やデータサイエンスの知識を身に付けること

身に付けられる能力

- ・ 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識及び技術を偏りなく体系的に修得することにより、社会におけるデータ・AI利活用に関する知識やデータを適切に読み解く能力を高める
- ・ 数理・データサイエンス・AIの利活用の楽しさや学ぶ意義を把握し、自分の生活に積極的に取り入れようとする態度を向上させる

開講されている科目の構成

「共通教育科目」 - 「比治山ベーシック科目」 - 「コミュニケーションリテラシー」 - 「情報」区分における「情報リテラシー」・「データサイエンス入門」

修了要件

「情報リテラシー」（1単位）・「データサイエンス入門」（2単位）の合計3単位を修得すること

実施体制

教学委員会 — 情報専門委員会 — 数理・データサイエンス・AI教育プログラム部会（情報メディアセンターと連携）